

島の未来を考えた！ ～海士の子どもの未来予想図～

2030年、 どんな島にしたい？



みんなの願いを短冊に…

現在海士町は、お米や野菜、魚などを島内で自給でき、美しい自然が多く残り、海士にしかない植物もたくさん生息する、素晴らしい環境の島です。しかし一方では、人口は過去5年で約120名も減り、海や山のゴミ問題や、竹の浸食による問題、そしてエネルギーを安定的に供給し続けられるかどうか不安があったりと、課題も多くあります。

果たして2030年の島の未来は、どうなっているのでしょうか。数年後ではなく、17年後というずいぶん先の未来です。未来の予測はとても難しいですが、『どんな島でありたいか』、島の未来像を描くことは重要です。

そこで、平成24年の7月から10月にかけて、海士町の未来の担い手である小学生、中学生、高校生の総勢273名に、『2030年の海士の未来への願いごと』を七夕



にちなんで短冊に託してもらいました。そしてこのたび、皆さんが書いた短冊361枚（※5つのテーマに沿った願いごとの合計枚数）をもとにまとめた『島の未来予想図』のイラストを作成しました。

海士の未来予想図は次のページ！

今回ご紹介するのは、『仕事』についての未来予想図です。

ぜひご覧いただき、子どもたちが描く未来への願いを感じていただきたいと思います。そして、今を生きる我々大人たちがどのような未来を子どもたちに残してあげられるのか、もう一度考えるきっかけにもなることを願っています。(渡辺)

※他のテーマの未来予想図も3月中旬に完成予定です。ご期待下さい。



いま小学6年生なら、2030年には30歳。仕事に就き、結婚したり、子どもがいる人もいることでしょう。そこで、願いごとは、『島』『自然』『暮らし』『仕事』そして『家族』という5つのテーマで書いてもらいました。皆さんの短冊には、「家の前の海でお父さんと釣りをしたい」・「海士町に大きな病院を建てて医者になってみんなを助けたい」・「今と変わらず人と人とのつながりを大切にできる島であってほしい」…といった、さまざまな願いが寄せられました。(環境整備課 渡辺祐一郎)

イラストで、みんなの夢を探してみてね！

れすりんぐのせんせいにになりたい！

医師になる！

写真家になる！

いつもえがおのはいしゃさんになりたい！

声優になりたい！



